

卯年はじめに

加治木高校生徒会新聞
軌跡



第7号
2023.02.06.(月)

制作
下村将太郎

発行
第75代生徒会

一、卯年はじめに
二、三学期の予定
三、大学入試カウントダウン
四、言の葉

五、好きになっちゃう放課後
六、二百字の本棚
七、LOGICAL
八、編集後記

一月十日、三学期の始業式が行われました。今回も感染症予防のため放送での実施、生徒は各教室からの参加となりました。コロナ禍で迎える新年も三回目です。

始業式での宇都校長先生の講話で、「掃除」についての話がありました。式の前には中掃除も行われましたが、自分たちが過ごす場所をきれいに保つのは、とても大切なことですね。

心新たに、卯年を始めましょう。

共通テストお疲れ様でした！

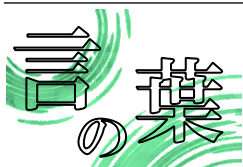


国公立大学前期日程試験まで

あと **019** 日

◇◇◇三学期の予定◇◇◇

一月十日	始業式
十一日	実力者査
十四日	大学入学共通テスト
二月三日	推薦入学者選抜
十四日	学年末考査
二十五日	国公立大学前期日程試験
二十八日	卒業式
三月二日	一般入学者選抜
十一日	ダンス部作品発表会
二十日	後期クラスマッチ
二十四日	終業式



何かに挑戦したら必ず報われるのであれば、誰でも必ず挑戦するだろう。

報われないかもしれないところで、同じ情熱、気力、モチベーションをもって継続しているのは非常に大変なことであり、私は、それこそが才能だと思っている。——羽生善治

数学
が好きな人へ

放課後

今回で一年間の連載の折り返しを迎える『好きになっちゃう放課後』、第五回の執筆は数学科の坂元勇夫先生。数学の魅力を語ります。

それでは、読めば数学が好きになっちゃう放課後の時間です！

●数学について振り返ってみると、中学生の頃は、やり方を覚えれば解ける教科で、例えばグラフとグラフの交点を求めるにはイコールで結べばよいと機械的に解いていた。なぜそうなのか考えることもなかった。高校に入ると因数分解でいきなりつまづく。なぜ？を怠ったつけが回ってきたのだ。

●調子は上がらないまま、あつという間に一年、

は過ぎた。覚えるだけでは通用しないことを実感し、なぜこのような解法を思いつくのか、ヒントなしで自分で思いつくだろうか？と考えながら参考書をやり直すことにした。色々な考え方があることを学び、方程式や不等式の様子がグラフの世界から考察できることや、論理的に考えれば必ず答えに辿り着けることに感動した。

●数学は解けるようになることと楽しい教科である。逆

に嫌いという人は、解けない経験ばかりが先行しているのではないか。一問ずつでいいので解けるまで頑張ってみよう。一度身についた分野は何度でも解けるし、テストでは得点源となる。できるようなになるまでに時間がかかるだけで、投げ出さなければ誰でもできるようになる。

●勉強するうえで大切なことは、よく読むことだ。公式を丸暗記しようとする人ほど、教科書に書いてある大事な説明を読んでいない。理解したうえで覚え、

ることが大事である。訂正の仕方にもポイントがある。解けなかった理由を丁寧に分析することだ。公式を覚えていない、確かめ不足、手順を忘れていたなど原因は様々。途中までできていたのなら、何に気づけば続きを書けたのか考えよう。単に分からな

いので済ませては同じミスをする。模範解答を見て、こんな解法は思いつかないと思うかもしれないが、論理的に考えればそういう考えに至るようにできている。

●他の教科にはない数学の魅力は、良問から驚きや発見、そして感動を得られることだ。習得済みの知識で未知の問題を解決でき、様々な解法で解くことができる。数学で悩んでいる人はひとつずつ壁を乗り越えよう。そうすれば新しい世界が見えるはずだ。ぜひ数学を楽しんでもらいたい。



坂元 勇夫

『二百字の本棚』 中島敦

古代アッシリヤ。とある老博士が、毎夜図書館に出没すると噂される「文字の霊」の調査を大王から命じられた。調査の過程でひとつの文字を凝視していると、いつしかその文字は解体し、無意味な線の交錯としか見えなくなり…。

文字を知る前、人々は直接物事を見ていた。何が文字を支配するのか。文字が何を支配するのか。記述は常に真実ではなく、ないことは必ずしもなかったことではない。文字に頼る世界に疑問を抱かせる名作短編。

LOGICAL V

前回の問題 A、B、Cの中から一人の犯人を捜す。犯人だけが事実を証言するというのがわかっていて、Aは「Bが犯人」と証言した。犯人は誰？

答え C

今回の問題 南へ一キロ、東へ一キロ、北へ一キロ進むと出発点に戻るような地点は、地球上に何か所あるか。

編集後記

二〇二三年が始まり、早くも一か月が経ちました。遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。今年は十二支では卯年ですが、十干十二支では「癸卯(みづのとう)」の年。「これまでの努力が花開き、実り始める」という意味があります。

今年もコロナ禍の年明け・新学期明けとなりましたが、これまでとは少し趣が違いました。新型コロナウイルス感染症の感染者こそ著しく増加してはいないものの、今度はインフルエンザとの同時流行。日本でインフルエンザが流行期に入るのは三年ぶりです。今年は数年ぶりに市街地に雪が積もるほどの寒冬でもあります。体調管理にはお気をつけて。

さて、今回の『二百字の本棚』では、中島敦の『文字禍』という短編小説を紹介しました。いわゆるゲシュタルト崩壊が鍵を握る物語です。これそのものは経験がある人も少なくないのではないかと思います。文字は非常に便利なツールですが、それだけで感情のすべては共有できないもの。表現の手段はいくつもありますが、やはり直接「話す」ことに勝るコミュニケーションはないように思います。

二〇二三年、第一号の生徒会新聞でした。次号もお楽しみに。そして、今年もよろしく願います。素敵な一年になりますように。(下村 将太郎)